



## 「地元の宝を守りたい」と ブランド鶏の開発元と連携し 全国流通を見据えた商品で 多可町の特産品をアピール

### 「とりめしの具」が県認証食品第1号に

多可町加美区で育てられる播州百日どりは、「より高品質でおいしく、安全な鶏肉を」という消費者の求めに応じ、1978年に北はりま農業協同組合（現JAみのり）が独自に鶏種を掛け合わせて開発しました。肉のうま味のもとになるイノシン酸の量が飼育から100日程度でピークになるという研究結果を受け、通常の2倍の約100日間飼育し、出荷しています。

同地区に道の駅ができることをきっかけに、95年、特産品の開発を進めるプロジェクト「かみ特産品クラブ」がスタート。同クラブ内のグループごとにさまざまな素材を使い、特産品開発を進めています。そこへみつばグループの代表として参加したのが安藤松子さん。手作りと安全にこだわったメニューの開発に力を注ぎました。

その時に安藤さんが着目したのが播州百日どりでした。かつては多くの出荷量を誇りましたが、低価格志向に押され、当時は勢いを失いつつあったそうです。以前JAで働き、ブランド化までの苦労をそばで見聞きしていただけに「この地元の宝を守りたかった」と安藤さん。そして播州百日どりのうま味を生かした「とりめしの具」が誕生しました。

パッケージには竹の皮を使い、道の駅の人気商品として定着。99年に優良ふるさと食品中央コンクールで農林水産大臣賞を受賞、2004年には兵庫県認証食品の第1号にも選ばれました。その後も「やきとり」や、鶏丼の具「こっこん」など品数を増やしています。

### 日持ちするレトルトカレーで全国流通狙う

播州百日どりは一部で高い評価を受けているものの、地元でさえ知る人が減っている窮状に安藤さんは頭を痛めていました。そんな折、多可町商工会のグルメ開発委員会で新たに播州百日どりを使ったメニューを開発するチャンスが訪れました。そこに審査委員長として参加していた料理家の大田忠道さんからあるアドバイスを受けます。『「とりめしの具」は要冷蔵で賞味期限が短く、流通に乗せにくい。全国区に打って出るなら日持ちのする食品を開発してはどうか。中でも、具体的にレトルトカレーの案が出されました。

そこで農商工連

携ファンド事業助成金を活用することとし、播州百日どりの開発元であるJAみのりに共同開発を呼び掛けました。10種類を超える試作品のカレーの中から、ココナツミルクをベースにした「アジア風味」と甘味を利かせた「オリジナル」の2種類の商品化を決定。世の中に多く出回っているレトルトカレーを差別化するため、同じ兵庫県の淡路島たまねぎを使うことで「兵庫県産」を強調しました。パッケージにも播州百日どりと淡路島たまねぎのイラストをあしらひ、「こっこカレー」のネーミングで発売しました。

一方、JAみのりは、17年秋に東京ビッグサイトで開かれた食肉産業展の地鶏・銘柄鶏好感度コンテストに播州百日どりを出品し、見事2位を獲得。



播州百日どりを使った「こっこカレー オリジナル」（手前）と「こっこカレー アジアン風味」

その後の展示会でもその賞状を「こっ  
こカレー」と一緒に並べることで注目を  
集め、ブランド力の向上で商品を支援  
しています。

現在は道の駅や地元のスーパーで  
2種類のカレーのセット売りも行い、土  
産品として順調に売り上げを伸ばして  
いる「こっこカレー」。安藤さんは「播州

百日どりを全国に広めていくには、発信  
し続けることと熱い思いが大事」と話  
し、鶏めしや焼き鳥などを缶詰にした  
商品の開発に挑んでいます。

会社概要  
みつばグループ

所在地 多可町加美区寺内251  
代表 安藤松子  
事業内容 播州百日どりに関わる特産品の製造

TEL 0795-20-1263  
URL <http://mituba.jp/>

## 支援メニュー講座

ひょうご農商工連携ファンド事業助成金

# 中小企業者等と農林漁業者が連携した、 新商品、新サービスの開発を応援します。

### 制度概要

県内の農林水産物などの地域資源を活かした、中小企業者等と農林漁業者の連携による新商品・新サービスの開発の取り組みについて支援を行っています。

この助成事業により、魅力ある農林漁業ビジネスや市場ニーズに適応した新商品の開発を実現し、事業者の収益拡大に貢献するとともに、地域経済の振興を図ります。

また、既に新商品開発に取り組んでいる事業も対象となります。

### メリット

- 商品開発に対して、500万円を限度とした助成金（助成率は、対象経費の3分の2以内）の交付が受けられます。（対象経費：原材料購入費、加工委託費、デザイン料等）
- 中小企業者等と農林漁業者が連携することで互いの強みを活かした商品開発が可能となり、新たなビジネスチャンスが広がります。
- 助成期間を最大1年6カ月設けていますので、開発計画に合わせて事業期間を自由に設定できます。
- 助成を受けた事業については、兵庫県とひょうご産業活性化センターが共同してPRの取り組み支援も行います。

問い合わせは ひょうご産業活性化センター創業推進部新事業課 TEL 078-977-9072